

陳 情 文 書 表

受 理 番 号	陳 情 第 8 4 号
件 名	緑の地球再生のための温暖化阻止運動推進に関することについて
要 旨	<p>ふるさと新潟が「政令都市」発足前後から、田園都市を中心とする政策に関心を持ち、環境問題、循環社会やストップ温暖化「菜の花プラン」を地域のコミ協、学校、住み郷協議会等、関連団体に温暖化啓発活動をさせてもらってきました。</p> <p>しかし、去る平成 25 年 5 月 10 日、米海洋大気局は、ハワイのマウナロア観測所(3,397 メートル)で、大気中の二酸化炭素の平均濃度が 9 日に、1958 年の観測開始以来初めて 400ppm の大台を越え、最高値を記録したと発表しました。翌 11 日に「温暖化に危険信号」とマスコミの一斉報道がありました。</p> <p>この記事を見て、もはやCO₂濃度、気温上昇はとめられず、世界の森林崩壊、世界人口が 80 億人から 100 億人の増加予測を考え合わせると温暖化はさらに激しくなり、日本を含む世界の現行制度では温暖化防止策は対応できなくなり、また国際的な利害対立の先送り地球環境の生態系の悪化は進むばかり、我々はこの状況を打開すべく温暖化阻止の構想を新潟から発信して、未来の子供たちを守るべくモデル事業の構築を願うものであります。</p> <p>近年、特に大気や海水温度上昇による異常気象の威力や頻度は増大し、その自然災害(猛暑、熱中症、暴風雨、洪水土砂災害、汚染と地獄の様相)の予測はしがたく、人々の生命無論有形無形資産に甚大な損害を与え、将来を予測すると恐怖と脅威を覚えると同時に、未来の子供たちを思うと温暖化地獄へと不安に思います。今まさに温暖化を阻止するのは、我々人類(大人たち)の責務でないでしょうか。</p> <p style="text-align: right;">(裏面につづく)</p>
付 託 年月日 委員会	<p>第 1 項 } 平成 25 年 9 月 6 日 } 第 3 項 } 環境建設常任委員会</p>
受 理	平成 25 年 8 月 1 2 日 第 2 0 6 号

つきましては、私たちバイオマス・ジャパンが推奨、啓発しております新潟育ちの「高速発酵技術」微生物作用を活用して、①高速伝播の発酵、腐敗により有機系廃棄物を燃やさず減量・肥料化をする。②微生物活性有機肥料が食料、燃料等の植物を早期育成する。③植物の光合成によりCO₂の吸収を削減し、酸素を放出する。

緑の地球再生が可能な「高速緑の改革」を世界へ発信させていただきたく、新潟市議会並びに市当局よりこのことについての調査、研究をお願い申し上げ、さらに新潟市から官民挙げての国際的温暖化阻止の運動になりますよう以下の事項を陳情いたします。

記

- 1 高速発酵技術による有機系廃棄物の減量、大量処理についての調査、研究をすること。
 - (1) 生ごみ（家庭、学校）、下水汚泥等の大量発酵処理及び利用方法
 - (2) 鳥屋野潟、通船川等のヘドロ浄化処理及び耕土の利用方法の実証
- 2 新潟県並びに新潟市内の大学及び関連企業、市民団体と連携して、市民参加の産学官連携の温暖化阻止を国や国際的に啓発をすること。
 - (1) 休耕地利用の市民参加の「菜の花プラン」ほか等の緑化事業や食廃油の回収運動
 - (2) バス・トラック協会等にBDF利用協力を呼びかけて、つくる所、使う所を大きくさせる啓発運動、実証
- 3 温暖化は全ての生物に影響する。子供からお年寄りまでの市民参加ができる緑化事業温暖化の危機感とその阻止活動の教育啓発をすること。
 - (1) 温暖化の原因が産業革命以来から人間活動によることの説明
 - (2) その危機的状況を公平、科学的解説
 - (3) 地球上の微生物作用が全ての生物環境を創造、この中の高速バイオ作用の活用による緑の地球再生の可能性の実証